

やさしい日本語を学んだことで、ふだんの仕事で専門用語をそのまま使うのではなく内容を伝えることを心がけるようになったヤクシジさん。ある日、ヤクシジさんが休暇中に歯医者に行ったところ、問診票をもったまま困っている様子のヤさんがいました。



ヤクシジさん

ヤさん、こんにちは。歯の調子が悪いですか。

ヤクシジさん！よかった、すいません、教えてください。何を書いたらいいですか。



ヤさん



ちょっと見ますね。「本日はどうなさいましたか」か…。えっと、ヤさん、歯の何が悪いですか。問題がありますか。

冷たいものを飲んだ時、この歯が痛いです。



わかりました。次は「歯の麻酔や抜歯などで具合が悪くなったことはありますか」、「お口以外の健康状態はいかがですか」、「かかりつけの病院・通院中の病院はありますか」…。えーと、麻酔は…何て説明したらいいかな…。

4



専門用語をわかりやすく説明しようとしているヤクシジさん、ナイスライです！でも、説明が難しい言葉に詰まってしまいましたね。

**Step ①** ④などの問診票の内容をどうやったらわかりやすく伝えられるか、考えてみよう！

## Step② あなたがヤクシジさんだったら、この他にどんなやさしさをプラスしますか？

## Step③ やさしさを広げるために、どんなことができそうですか？



最近、市役所・病院・学校などの公的機関で、書類をやさしい日本語で作成する取り組みが増えてきました。同時に、多言語対応や多言語ツールの作成も進められていますが、やさしい日本語は、情報がより整理されることで、外国人にとってだけでなく、日本人にとってもわかりやすく「やさしい」ものとなります。

そして外国人が日本の医療機関を受診するときは、日本語の問題の前に、何科に行けばいいのか、何が保険適用なのか、予約が必要なのか、受付・診察・会計・薬の受け取りの流れなど、自国のシステムとは異なることがあります。また、病院に行ったものの「日本語が話せない方は診れません。通訳を連れてきてください」と受付で言われてしまったり、言葉がわからないことから病院に行くことをためらったり、市販薬だけでなんとかやり過ごそうとするうちに病気が悪化してしまった…というケースもたくさん起こっています。そんな背景を少し想像してみることで、日常の景色が少し変わって見えるかもしれません。